

昭和・戦後の天王寺



戦後のはじまり

昭和20年8月15日終戦となっても、敗戦による衣食住の不安、なかでも食糧不足は深刻でした。市民は長い苦しい戦争生活に打ちひしがれながらも、復興への意欲を燃えおこしました。そして外地からの復員もはじまりました。戦災の焼け跡に自給農園を作ったのもこのころのことです。



復興博覧会

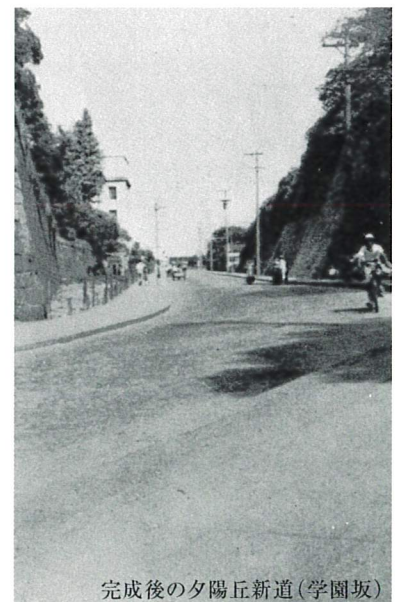
戦災復興土地区画整理

空襲をうけ焼土と化した天王寺区の各地で復興土地区画整理が実施されました。区民の協力を得て区画整理が進められ、道路が広くなり、公園が整備されていきました。



復興大博覧会

昭和23年9月に夕陽丘、生玉の焼け跡で、毎日新聞社が博覧会を催し、復興の意欲を盛りあげました。科学館、文化館、貿易館などの施設が作られ多くの人を集めました。これらの施設は終了後、府の母子寮、市の文化会館、郵便局などに転用され、この付近の焼け跡はその姿を一変させました。



昭和・戦後の天王寺



昭和29年ごろの上六



昭和30年ごろの天王寺



昭和35年2月の天王寺駅

昭和30年ごろの 天王寺区

敷き詰められた石畳の上を市電が走ります。交通量は今とは比較にならないほど少なく、静かなたたずまいです。天王寺駅は大阪の南玄関です。写真は国鉄天王寺民衆駅として建てかえられる前の昭和35年2月のものです。

市電



市電の廃止と地下鉄の 開通

高度成長とともに車の交通量が増え次々と市電が廃止されていきました。

天王寺区でも昭和36年に阿倍野～玉造間、上二～玉造間が廃止され、やがて昭和44年には全廃されました。市電にかわってトロリーバスが運行されたのもこのころです。

地下鉄が大阪にはじめて走ったのは昭和8年（梅田～心斎橋間）でした。昭和13年には天王寺～梅田間が完成しました。昭和27年には西田辺までのびています。以降市電の廃止にともなって次々と地下鉄路線が計画され、完成されていきました。

トロリーバス



地下鉄開通

